

CONTENTS

病院本館建築について

新任のご挨拶

(一般・消化器・小児外科)

小児の外科治療への取り組み ～臍を使う手術～

医療連携室からのお知らせ

編集後記



病院本館建築について

新しい令和の時代がはじまりました。大阪医科大学附属病院も新たな一歩を踏み出しました。ここ数年の地震や台風等の天災に加え、本院の建物も老朽化が進んでいることから、全面的に病院を建替えることになりました。平成28年3月には創立90周年記念事業として、関西でも有数の規模と最新鋭の機器・設備を備えた中央手術棟が竣工・稼働しました。

また平成30年6月には、新たながん治療施設として関西BNCT共同医療センターが開院しました。さらに今後創立100周年記念事業として、大学病院新本館を建築する予定です。工程としては2段階で建築し、今夏から解体作業を開始し、まず令和4年に北側にA棟が竣工。その後令和7年には南側にB棟を竣工して、12階建てのメインタワーが完成する予定です。

工事期間中、ご来院の患者さんや周辺の皆様方には、ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



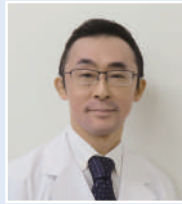
病院長
広域医療連携センター長
内山 和久

新任のご挨拶

産科・生殖医学科

ふじ た だい すけ
科長 藤田 太輔

【平成30年12月16日着任】



産科については、妊娠分娩管理でお困りのことがあればいつでもご紹介ください。大学病院として診療科間連携の利点を生かし迅速に対応します。緊急母体搬送は「周産期ホットライン」を通じて直接担当医がお受けします。また生殖医学科では、若年がん患者さんに対する、対象者への胚・卵子・精子凍結に対応しております。

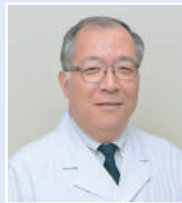
Profile

- 専門分野
周産期全般（胎児超音波、合併症妊娠、不育症など）
- 資格
産婦人科専門医、周産期専門医（母体・胎児）
臨床遺伝専門医
- 略歴
平成13年 大阪医科大学医学部卒業
平成17年 大阪医科大学産婦人科教室 助手
平成23年 大阪医科大学附属病院 産科病棟医長
平成27年 大阪医科大学産婦人科学教室 講師
- 趣味/特技
車、バイク、服

小児科

あし た あきら
科長 芦田 明

【平成31年4月1日着任】



少子高齢化が急速に進行する中、子どもは社会の宝でありすべての子どもの健やかな成長は我が国社会全体の願いであります。

当科では、腎臓をはじめとする各種専門グループを擁し、子どもに生じるあらゆる疾患に対応できる体制で子どもの全人的な診断、治療を行っています。

ご紹介のほど、よろしく願いいたします。

Profile

- 専門分野
小児腎臓病学
- 資格
日本小児科学会専門医/指導医
日本腎臓学会専門医/指導医
- 略歴
昭和63年 大阪医科大学医学部卒業
平成 7年 大阪医科大学 小児科学教室 助手
平成16年 大阪医科大学 小児科学教室 学内講師
平成19年 大阪医科大学 小児科学教室 講師
平成31年 大阪医科大学 小児科学教室 教授
- 趣味/特技
旅行

腎臓内科

み ま あきら
科長 美馬 晶

【平成31年4月1日着任】



当科では蛋白尿、血尿の検査から腎炎、ネフローゼ、慢性腎臓病、糖尿病性腎症、末期腎不全、透析療法などの腎疾患全般、さらに膠原病・血管炎などの特殊な疾患まで幅広い診療を行います。必要に応じ腎生検を行い、組織に基づいた診断と治療を行っています。どうぞお気軽にご紹介ください。何卒よろしく願いいたします。

Profile

- 専門分野
腎疾患全般、慢性腎臓病、糖尿病性腎症、腎炎、透析療法
- 資格
腎臓専門医、総合内科専門医、透析専門医、老年病専門医
- 略歴
平成 9年 秋田大学医学部医学科卒業
平成20年 京都大学医学部附属病院腎臓内科 院内助教
平成20年 ハーバード大学医学部
ジョスリン糖尿病センター博士研究員
平成24年 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
腎臓内科学 助教
平成28年 近畿大学医学部奈良病院腎臓内科 講師・科長
平成31年 大阪医科大学内科学Ⅲ教室 腎臓内科
特別職務担当教員(教授)
- 趣味/特技
音楽鑑賞、スポーツ観戦

一般・消化器・小児外科

小児の外科治療への取り組み ～臍を使う手術～

とみ やま ひで き
医長 富山 英紀

本院では平成26年4月から小児外科診療を開始いたしました。

少子高齢化が叫ばれる現在ですが、14歳までの年少人口は1,595万人で全人口の12.5%を占めており、その健やかな成長は非常に重要です。そしてその子どもたちの外科治療を担うのが小児外科です。対象とする疾患は消化器系を中心に泌尿器や呼吸器、形成外科的な分野にまで多岐に渡ります。「子どもは小さな大人ではない」とは小児科でよく使われるフレーズですが、小児外科においても同様であり、ただ単に小さい臓器に細かい手技で介入するだけではなく、将来的なQOLまでも考慮したアプローチが求められます。ここでは治療手技の一端をご紹介します。

■ 腹腔鏡手術について

小児外科領域でも成人同様に内視鏡手術が拡がりつつあります。当科では女兒の卵巢嚢腫や急性虫垂炎に対しては特に臍部のみのポートで行う単孔式腹腔鏡を行っています。術後は創が臍内に隠れ、満足いく外観が得られます（写真1）。小さな創部で美容的な効果のみならず術後の疼痛や癒着などの合併症の減少にも寄与することから今後積極的に導入していく予定です。



(写真1)
卵巢嚢腫の摘除術2週間後の状態。臍内を縦切開した。

■ 開腹手術について

一方で多くの疾患は開腹手術で行っていますがその手法も従来から様変わりしています。乳幼児期は腹部全体に対し相対的な臍のサイズが大きく、また腹壁自体が柔らかいことから臍部周囲の小切開創で多くの手術を行う事が可能です。新生児期の先天性消化管閉鎖や腸回転異常症、乳児の肥厚性幽門狭窄症、腸重積などでは、臍の輪郭に沿った

半周切開で開腹し、ここから腸管吻合などの腹腔内操作を行います。臍の輪郭や皺壁に沿う創部は術後殆ど目立たなくなります（写真2）。



(写真2)
肥厚性幽門狭窄症の術後2週間での所見。臍上部を弧状切開した。

このように開腹手術でも可能な限り審美的にも満足行く治療を心がけています。

■ 当院での診療

小児外科では先天性の特殊な疾患ばかりではなく、鼠径ヘルニアや臍ヘルニアといった比較的好く見られる疾患も数多く扱っています。また疾患によっては必ずしも手術が必須ではないような場合もあり、保存的に経過を見ていく選択も行うことがありますので、まずはご相談いただければと思います。「不運な子どもたちを不幸にしないために」という言葉が我々小児外科医の中ではよく知られていますが、その為にも手術だけに限らない技術をもって患児に向かいたいと考えています。

小児外科外来は毎週水曜日に行っております。ご紹介の際には、本院医療連携室にてご予約をお願いいたします。



医療連携室からのお知らせ

白内障日帰り手術のご案内

平成31年4月より『日帰り白内障手術』を開始しています。患者さんのご希望やご病状に合わせて、「日帰り手術」と「短期入院（原則2泊3日）」を選択していただくことができます。

手術希望の患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。



「平成30年度難病患者在宅医療支援事業研修会」を開催しました

去る平成31年3月15日（金）、本院において「難病患者の口腔・嚥下へのアプローチ」をテーマに開催しました。

まずはじめに、本院歯科口腔外科の寺井陽彦より、「今日に至るまでの我が国の口腔ケアの変遷・フレイルにおける口腔管理の位置づけ」について話題提供をいたしました。

つづいて、国立病院機構岡山医療センター歯科衛生士 松尾敬子先生より「岡山医療センターでの難病患者への口腔ケアの取り組みについて」をテーマに、自院で実践されている院内および地域に向けた口腔ケアの取り組みをご講演いただきました。

当日は、70名を超える地域の在宅医療の場で活躍されている医療・介護従事者の方々にご参加をいただきました。口腔ケアを実践するスタッフにとって、日々のケアに繋がる実践スキルを修得できる貴重な研修会となりました。



編集後記

平成から令和の時代になりました。時代の節目に立ち会い、感慨深い思いです。

祝賀ムード一色の令和の始まりに比べ、平成は非常に厳粛な雰囲気でのスタートでした。プロ野球のビールかけやお笑い番組が自粛されるなど、昭和の終わりには緊迫した状態だったことがついこの間のように思い出されます。

しかし平成の30年余りで、国際情勢は大きく変化し、技術革新も進みました。高嶺の花だった携帯電話は、1人1台のスマートフォン時代になりました。

医療連携室も、予約件数1日10件だったのが、今では1日100件を超えることも珍しくありません。スタッフも3名から、事務員19名看護師3名の計22名の大所帯となりました。担う業務もどんどん増えてきました。

急速な変化が進む中、新棟が完成する6年後を予測することは困難ですが、未知の将来に対し、適応力、柔軟性を持った医療連携室を育てていきたいと思えます。(K.T.)

医療連携室ご利用のご案内

医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日／8:30～20:00 土曜日／8:30～12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科大学附属病院広域医療連携センター医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

●TEL.072-683-1221 (大代表) 内線2308

●TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)

FAX

送信先 FAX 072-684-6339

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください